

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年7月14日(2016.7.14)

【公開番号】特開2016-47449(P2016-47449A)

【公開日】平成28年4月7日(2016.4.7)

【年通号数】公開・登録公報2016-021

【出願番号】特願2015-242924(P2015-242924)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 D

【手続補正書】

【提出日】平成28年5月26日(2016.5.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動条件が成立したことに基づいて複数のリールを回転させ、停止操作されたことに基づいて回転中のリールを停止させる制御を実行可能な遊技機であって、

前記始動条件が成立したことに基づいて、複数の役のなかからいずれかを選び出しうる内部抽選を行う抽選手段と、

前記内部抽選の結果に基づいて、遊技者に有利な特典ゲームを実行可能な特典ゲーム実行手段と、

前記特典ゲームとは別に用意された遊技者に有利な付加ゲームを実行可能な付加ゲーム実行手段と、

前記内部抽選の結果に基づいて複数の図柄の組み合わせからなる図柄態様がライン上に表示される特定ライン領域と、該特定ライン領域とは別の領域である非特定ライン領域とを有する表示領域と、

前記内部抽選の結果及び前記停止操作に基づいて、前記特典ゲームが付与されるときには前記特定ライン領域に特典図柄態様が表示されるよう制御するとともに、前記付加ゲームが付与されるときには前記非特定ライン領域に特定図柄が表示されるよう制御する表示制御手段と、

所定の可動体を有し、該可動体を前記表示領域の前方に進出させて、前記表示領域における表示の視認を妨げる演出を実行可能な可動演出実行手段と、

を備える遊技機であって、

前記可動演出実行手段は、

前記可動体を前記表示領域の前方に進出させるにあたり、前記特定ライン領域の前方まで前記可動体を進出させずに該特定ライン領域の視認を維持しつつ、前記特定図柄については該特定図柄の前方まで前記可動体を進出させて視認を妨げる手段を有し、

前記遊技機はさらに、

前記可動演出実行手段による前記可動体の進出により視認が妨げられた前記特定図柄についての視認の妨げが解かれたとき、該特定図柄とは異なる別の図柄を表示する図柄変更手段を備える

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記始動条件は、遊技媒体の投入と所定の始動操作が行われたことに基づいて成立するものである

請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

前記複数の役には、前記遊技媒体が投入されなくとも前記始動条件を成立させることが可能なプレイ役が含まれる

請求項 1 または 2 に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

しかしながら、上記の遊技機では、興趣が低下するおそれがある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明の目的は、こうした実情に鑑みて、興趣の低下を抑制することを目的とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項 1 に係る遊技機は、始動条件が成立したことに基づいて複数のリールを回転させ、停止操作されたことに基づいて回転中のリールを停止させる制御を実行可能な遊技機であって、前記始動条件が成立したことに基づいて、複数の役のなかからいずれかを選び出しうる内部抽選を行う抽選手段と、前記内部抽選の結果に基づいて、遊技者に有利な特典ゲームを実行可能な特典ゲーム実行手段と、前記特典ゲームとは別に用意された遊技者に有利な付加ゲームを実行可能な付加ゲーム実行手段と、前記内部抽選の結果に基づいて複数の図柄の組み合わせからなる図柄態様がライン上に表示される特定ライン領域と、該特定ライン領域とは別の領域である非特定ライン領域とを有する表示領域と、前記内部抽選の結果及び前記停止操作に基づいて、前記特典ゲームが付与されるときには前記特定ライン領域に特典図柄態様が表示されるよう制御するとともに、前記付加ゲームが付与されるときには前記非特定ライン領域に特定図柄が表示されるよう制御する表示制御手段と、所定の可動体を有し、該可動体を前記表示領域の前方に進出させて、前記表示領域における表示の視認を妨げる演出を実行可能な可動演出実行手段と、を備える遊技機であって、前記可動演出実行手段は、前記可動体を前記表示領域の前方に進出させるにあたり、前記特定ライン領域の前方まで前記可動体を進出させずに該特定ライン領域の視認を維持しつつ、前記特定図柄については該特定図柄の前方まで前記可動体を進出させて視認を妨げる手段を有し、前記遊技機はさらに、前記可動演出実行手段による前記可動体の進出により視認が妨げられた前記特定図柄についての視認の妨げが解かれたとき、該特定図柄とは異なる別の図柄を表示する図柄変更手段を備えることを特徴とする。

請求項 2 に係る遊技機は、請求項 1 において、前記始動条件は、遊技媒体の投入と所定の始動操作が行われたことに基づいて成立するものである。

請求項 3 に係る遊技機は、請求項 1 または 2 において、前記複数の役には、前記遊技媒体が投入されなくとも前記始動条件を成立させることが可能なプレイ役が含まれるもの

である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】
【手続補正 1 5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 8
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 6】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 9
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 0
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 1
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 9】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 2
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 0】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 3
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 4
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 5
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 6
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 7
【補正方法】削除

【補正の内容】
【手続補正 2 5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 8
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 6】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 9
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 3 0
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 3 1
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 2 9】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 3 2
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 0】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 3 3
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 3 4
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 3 5
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 3 3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 3 6
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 3 6】

このように、本発明は、興味の低下を抑制することができる。